

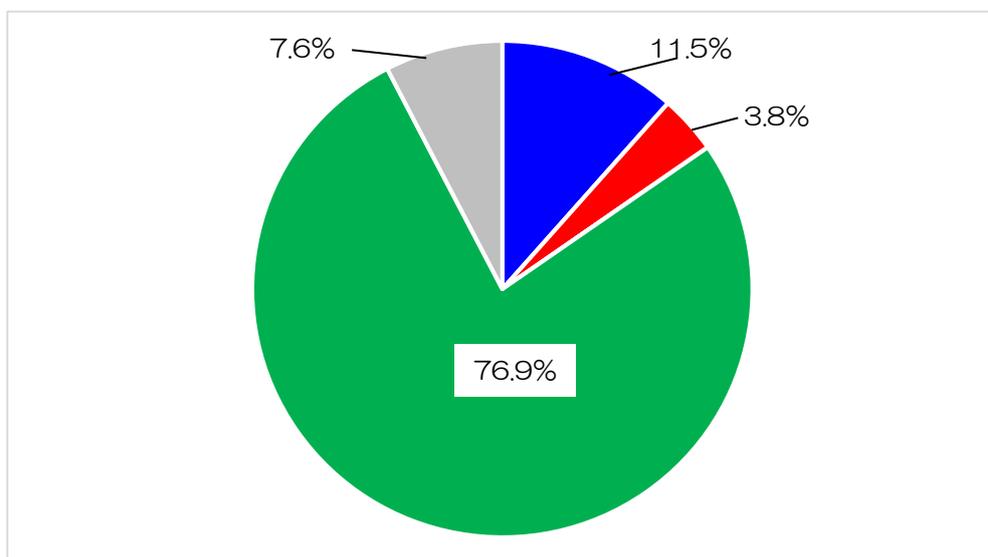
メダカ里親制度に関するアンケート調査（結果）

令和5年3月

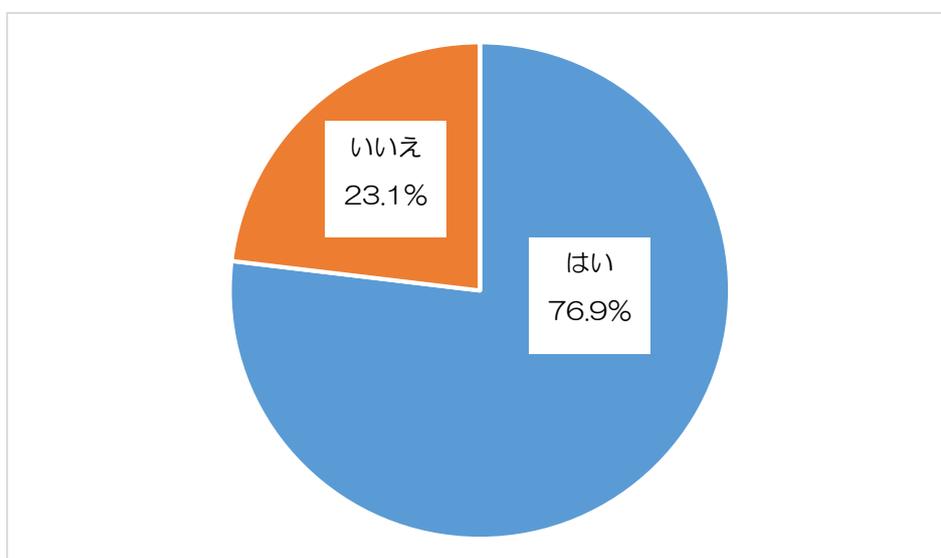
11月～12月に実施したメダカ里親向けアンケートについては、26件の回答がありました。以下、集計結果です。

1 野生メダカの保全活動に参加しようと思った理由は何ですか？（最も当てはまるものを1つ選択）

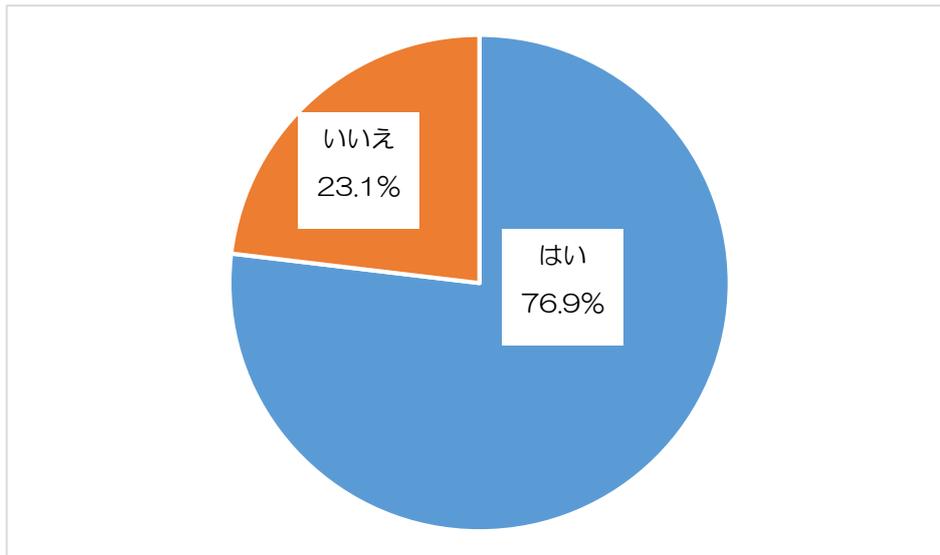
■	震災復興に関心は無かったが、メダカの飼育に興味があったから	11.5%
■	震災復興に関心は無かったが、メダカの保全に興味があったから	3.8%
■	メダカにはあまり興味は無かったが、震災復興に協力できると思ったから	0%
■	メダカの飼育・保全に興味があり、更に震災復興にも協力したいと思ったから	76.9%
■	その他：なんとなく（3.8%）、親戚に誘われた（3.8%）	7.6%



2 あなたは、野生メダカが環境省「絶滅危惧Ⅱ類」に分類されることをご存知でしたか？



3 本計画に参加する以前から生物多様性保全について、関心がありましたか？



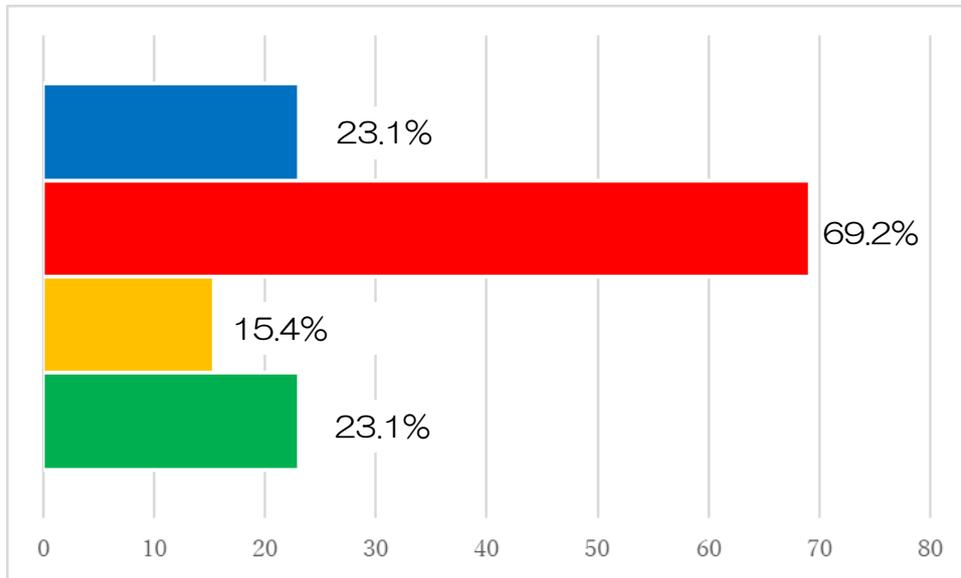
4 本計画以外に、生物多様性保全のために取り組まれていることがあれば、お聞かせ下さい。

- 庭に在来野草をできるだけうる、屋上緑化にそれまでの庭土を利用
- 無農薬、無化学肥料の栽培米について生産者支援等
- 自然観察等植物が主ですが散策を続けている
- 中山地区にあるうどう沼はヘラブナ釣場として存在しますが、外来種のブラックバスが放流され、いな及び鯉が増殖しておりません。そこでバスターズとしてひまなときに釣りに行き除外しております。
- 無農薬・化学肥料を使用しない米作り、仲間と一緒に冬水田んぼビオトープの保全活動（カントリーパーク新浜）
- 日本さくら草育成

5 当園などで開催されたメダカに関するイベントに、参加されましたか？（当てはまるもの全て選択）

■	参加していない	23.1%
■	当園での里親交流会に参加	69.2%
■	若林区での合同里親交流会に参加	15.4%
■	井土メダカのピオトープ管理イベントに参加	23.1%

※ うち、上記3つとも参加した方（15.4%）、2つに参加した方（11.5%）、1つだけに参加した方（57.5%）



6 本計画に参加した感想をお聞かせ下さい。

6-1 自宅でのメダカ飼育を通じて、どんなときに飼って良かったと思いますか？

＜飼育に関すること＞16件

- ・起床後、朝一番で餌をやるのをメダカが待っているのがかわいいと思う
- ・卵が孵化し稚魚が増えた時
- ・卵から成魚まで無事育ち、飼育数が増えたとき
- ・元気に泳ぐ姿を見ることが出来たこと
- ・餌やり水替えなど小さな生命に慈しみを持って接することで心が穏やかになれる

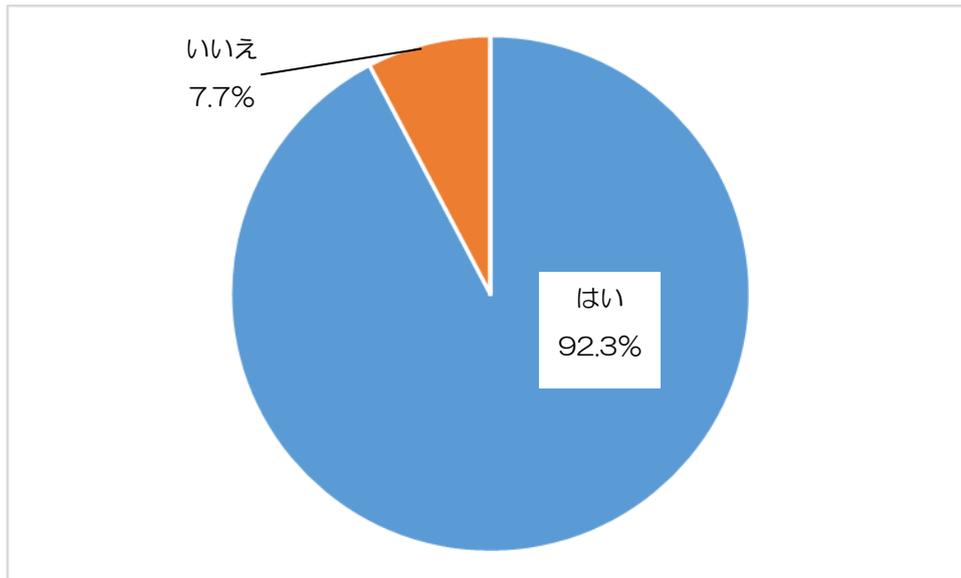
＜人とのコミュニケーションに関すること＞3件

- ・魚好きの息子との話題が増えた。
- ・子供と一緒に観察しながら飼育出来たこと
- ・知り合いに活動を説明し、環境保護に興味を示していただいた

＜子どもたちへの教育に関すること＞4件

- ・子供と環境問題について話が出来た時
- ・子どもに生命の大切さを伝えられたとき

6-2 飼育を通じて、自分あるいは家族の中で変化はありましたか？



6-2 それはどんな変化ですか？

<自然や環境についての学び・興味>9件

- ・地域にいる生き物に対する関心が増した
- ・メダカに限らず身近にいる小動物が生きていく環境について、考え話す機会が増えました
- ・売っているメダカと野生メダカについて改めて考えたこと
- ・井土めだかのいた地域への関心が高まり、現在は、貞山堀で採集してきたイサザアミの飼育をおこなっている

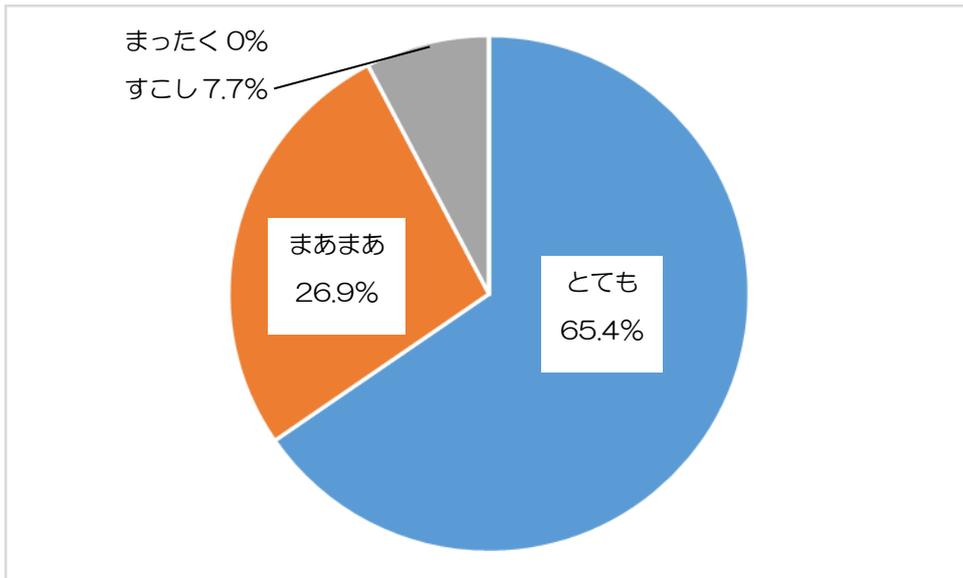
<他者との関わり、コミュニケーション>8件

- ・飼育している話を友達など周りの人から興味をもたれた
- ・家族がメダカに関心を持つようになり、飼育の手伝いをしてくれるようになった
- ・子供が興味をもち、卵の世話などを行ってくれた
- ・家族との話題が増えた

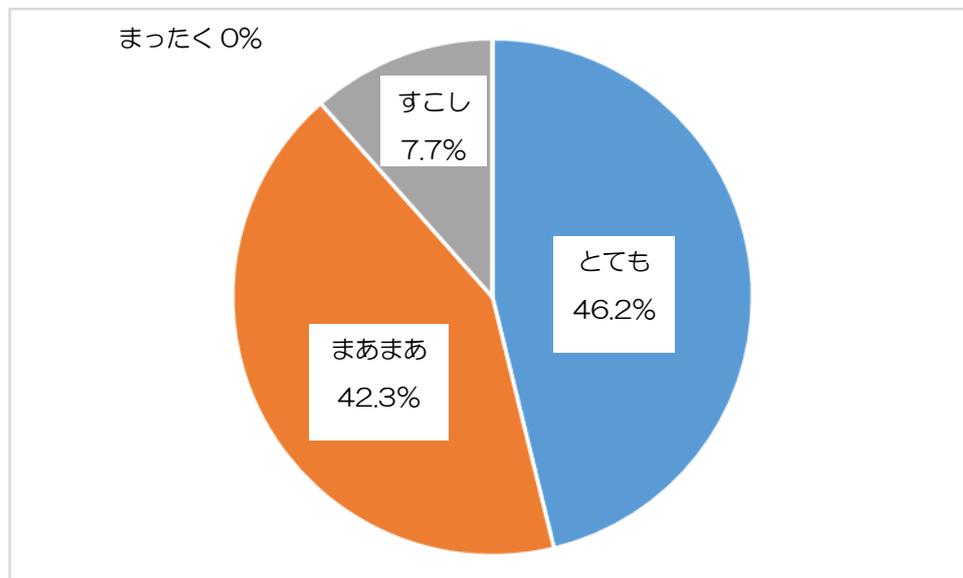
<飼育メダカへの愛着>7件

- ・生き物を飼育していることでの責任を感じるが、一方で生きがいも感じる
- ・生き物を大切にしようとするよりいっそう思うようになりました
- ・泳ぐ姿が見られ癒されることが多い、時々のでいて稚魚を見つけ喜び

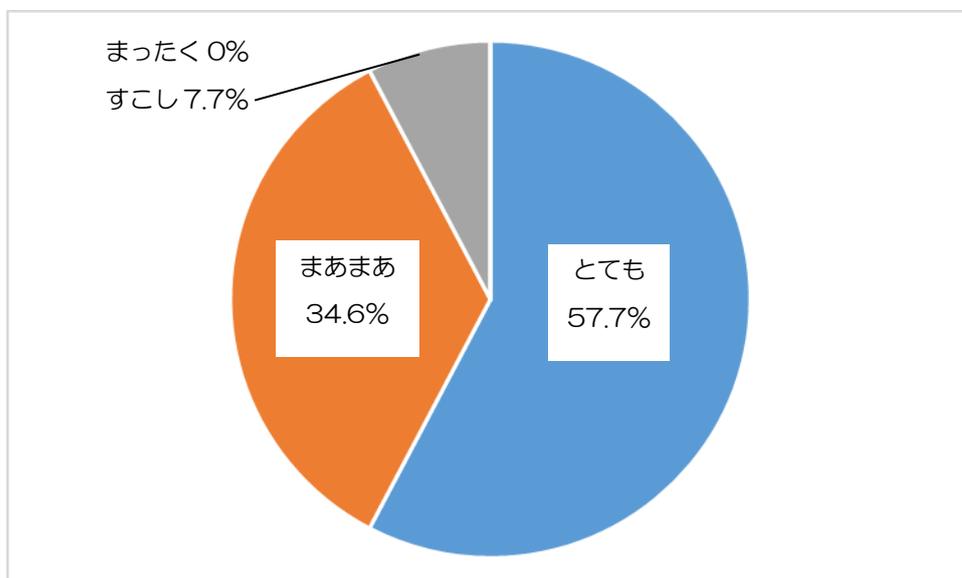
6-3 以前と比べて、生き物に愛着がわくようになりましたか？



6-4 以前と比べて、震災復興へ関心が高まりましたか？



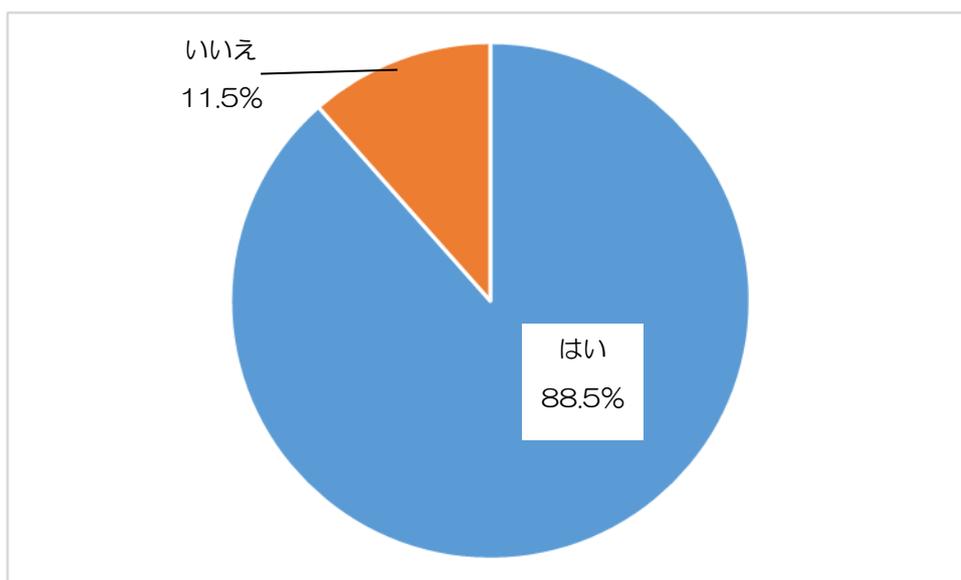
6-5 以前と比べて、生物多様性保全への意識が高まりましたか？



6-6 その他の感想

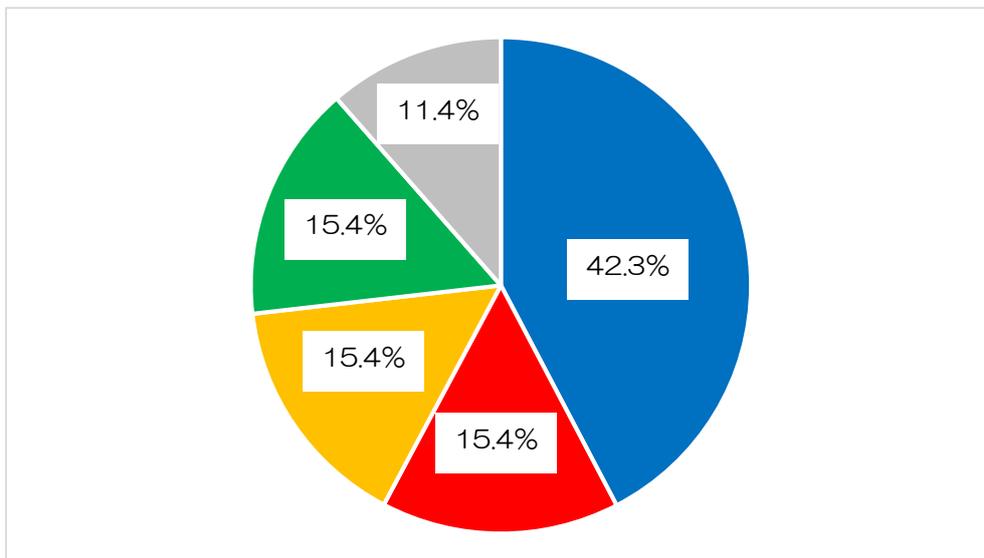
- 機会があれば次回また参加してみたいです。
- “多様性は生態系 象徴種はわかりやすくアピール力あり”
- 今現在モルモット 2 匹飼育しています。子供が飼いたいとあって、学校に行く前に必ず、行ってくるね、と中学生息子は声を掛けて出掛けて行く姿に嬉しさを感じる、生き物を大事にすることは人にも共通すると信じて飼育を続けています。
- 自分の場合、初年度は大量に孵化して成長したが、以降年々、孵化数が減るとともに稚魚の死亡数が増えて飼育に自信がなくなってしまった。別に飼っているヒメダカと比べるとひ弱になった印象がありました。
- 今、家で孵って代がわりしていたメダカが 1 匹になってしまいました。新しいメダカも頂いたのですが、10匹から2匹までに減ってしまい、合わせて3匹しか残っていません。丈夫そうできて、繊細なメダカをずっと飼っていたと思います。
- メダカの里親になれた時から今日まで、日々感謝の気持ちを感じながら毎日楽しく飼育させていただいております。ほんの少しでも震災復興のお手伝いができているなら嬉しいです。
- 10年近くなっているので高齢化もありそろそろお返ししたいと考えています。
- メダカ以外の水性生物や動物についても関心を持つようになった。
- 約 1000 匹ものメダカを動物園に里帰りさせることができました。他に野生のメダカがいれば今回のノウハウを生かして増殖に協力したいものです。
- 井土メダカは勝手に小川に放流してはいけないことは理解しました。例えば外界と閉じられた池などへの放流も全く認められないのでしょうか？”
- 他に動物を飼っているので、生き物には元々関心がある。外来種ブラックバスの駆除等あるいは外来植物セイタカアワダチソウも何とかならないか、と思っている。

7 井土メダカを自然にかえす際、本計画のメダカ集団採取地である井土地区周辺のみにはしか放流できないことを知っていますか？



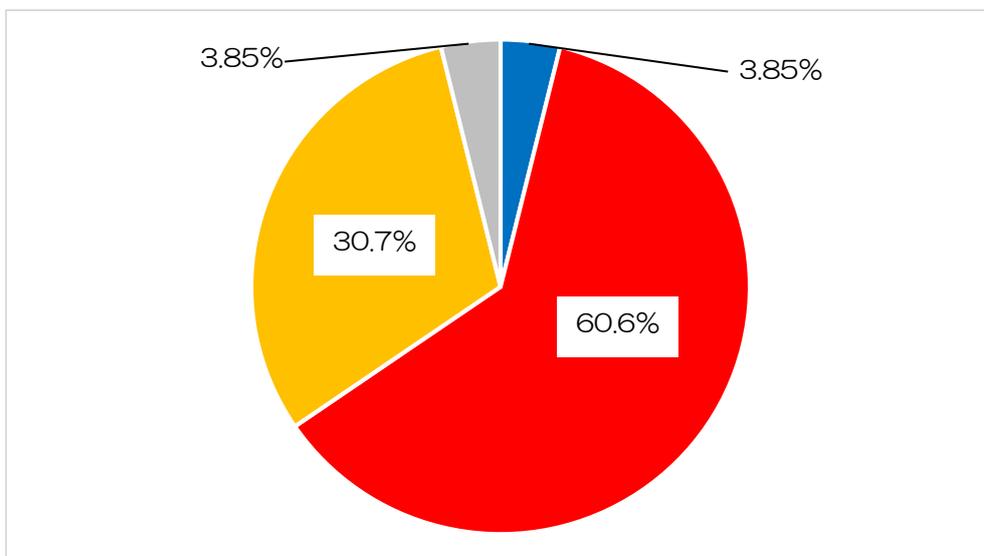
8 井土メダカの放流先について、参加する前はどのように認識していましたか？（当てはまるもの1つを選択）。

■	本計画のメダカ集団採取地である井土地区周辺のみ	42.3%
■	かつて野生メダカが生息していた宮城県広域の地域	15.4%
■	日本のかつて野生メダカが生息していた地域	15.4%
■	メダカにとって住みやすい環境を新たに整備する	15.4%
■	その他：川だったらどこでも（3.8%）、放流先の知識が無かった（7.6%）	11.4%

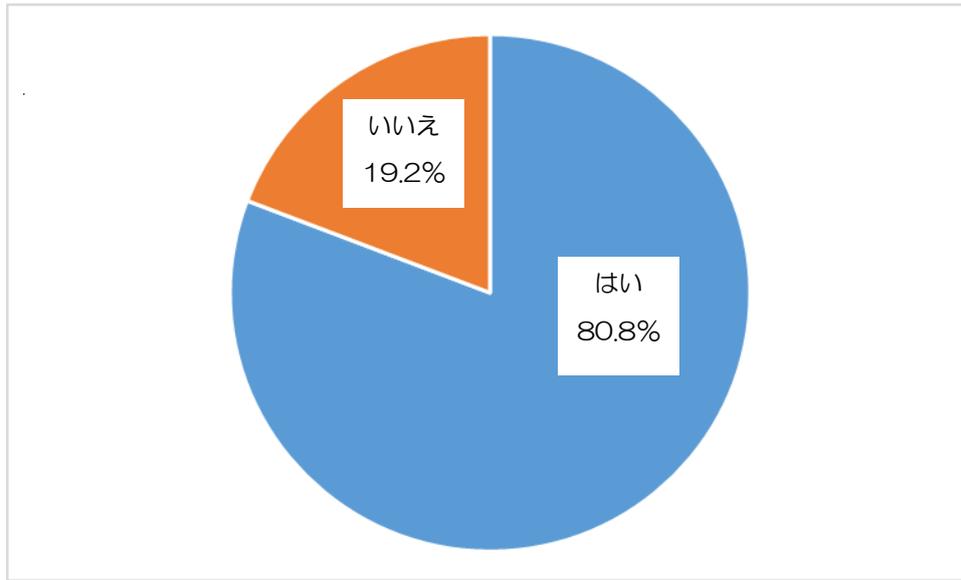


9 井土メダカの飼育をどれくらい続けたいですか？（当てはまるものを1つ選択）

■	事業終了時（R5年3月）に、大学・動物園に全て返却したい	3.85%
■	事業終了後も、自宅に残して飼育を続けたい	61.6%
■	既に飼育はしていない	30.7%
■	その他：飼育を再開する予定	3.85%



10-1 今後、野生メダカ以外の生き物の保全活動へ参加・協力したいと思われませんか？



10-2 はいの方は、どんな活動をしたいですか？

- どのような活動でも生き物に関わる事なら参加したい
- 絶滅危惧の動物や植物の繁殖に協力したい
- 絶滅危惧種の動物などに関心を持って行きたい
- メダカ同様、各家庭で分散して飼育できる活動や自然へ帰す場所の整備
- 水圏生物の飼育繁殖活動
- 外来生物を駆除し、在来種を保護したい。
- 生育環境整備の手伝いなど
- 環境整備
- ご提案された内容に応じて参加したい
- 農業を通じて生き物観察や保全にとりくんで行きたい
- 家で簡単な環境の元で飼育できるような生き物の里親（2）
- 先ずはどんな生き物が保全を必要としているか知ることから始めないといけないと思う
- ブラックバスやセイタカアワダチソウの駆除
- 特に決まったものはありませんが、機会があれば参加したいと思います。（2）
- 体と相談して
- 具体的にはわからないが、できることを無理のない範囲で続けたい（3）
- 今回のように、自分のできる範囲で協力することがあれば、活動に協力していきたい。

10-3 いいえの方は理由をお聞かせ下さい。

- 年齢的に高齢になったので
- 飼育が大変だった。
- 現在大学生のため他県に移動しており活動が難しいと思う

11 動物園の取り組む身近な生き物の保全活動について、期待されていることやご意見がありましたら、お聞かせ下さい。

- 動物園が中心となり、幅広く生き物の保全に関わる事は将来的に大事な活動だと思います。鑑賞の為だけでなく地域の野生生物保護にも活躍されている事をこの活動を通して知ることができました。このような機会をもっと増やしてもらえればと思います。
- 身近な生き物の生態系を観察する視点での展示
- 期待します、今子供たちも大学生、中学生になり、なかなか家族で動物園に、とまりませんが、動物が好きな気持ちは変わらずです、またこのような別の生き物でも何かあれば協力したい、とにかく将来を担う子供たちに誠実な人間なってもらいたいと思う、それには生き物とふれあい大切にすることを必要に思うから。
- メダカ同様、取り組む活動があれば参加したい
- 井土メダカの里親になり、補充やお返しの際、動物園の係のかたに親切にいただき感謝。今後とも先生のプロジェクトに期待。
- 特に近隣での活動がありましたらお知らせいただきたい。参加出来る企画があると嬉しいです。
- 絶滅危惧の水棲昆虫等の保全や展示、情報の周知をお願いしたい
- 大人になって思うことは、その動物にとっての最善な環境はどのようなところなのかということ。動物園で生まれた動物が野生に戻ることは出来ないでしょう。
- 井土メダカが元居た地域に戻ることはとても素晴らしいことと思います。種の保存と環境の保全、どちらもできると良いと思います。
- 常に期待しています。子どもたちの机上での知識の習得は非常に多いが、5感を育てる場が失われていることに憂慮している。動物公園の役割は実際に飼育している現場の方々から伝えることがどんなにか大切な時期に来ているかと感じています。絵本や図鑑で観ても臭いや肌の感触大きさ等わかりません。学校教育のなかで同じ地球上の生き物として一年間に何回か動物とふれ合う学習があってもよいのかと思いますので、せめて八木山地域の学校と連携を密にして欲しいと思っています。宜しくお願い致します。
- 玄関前の棚に6鉢ほどで60匹飼育していましたが、数年前の地震により、倒壊して全滅してしまいました。井土メダカ以外を飼育するつもりがなく、残念ですが飼育をやめました。これからも地元の生き物保全に取り組んでいただきたい。
- 動物園で取り組む保全活動というと、かなり専門的な知識・環境が必要と思われるので自分には無理だろうと思う。ただ動物園などが活動を伝えるための講演会やイベントがあれば、なるべく参加して現状を知り、自分でできることがあれば行動していくことは、可能かもしれない。
- 子どもの頃はゲンゴロウやヤゴなど近くの小川にたくさん住んでいたが、汚れが酷くなり、いなくなった。しかし、庭の水槽にミズスマシが飛んで来たりする。他の生物の保全活動も必要です。